

『悪霊2』主要登場人物



ステパン・トロワイモヴィチ・ヴェルホヴェンスキー……西欧派の進歩的文化人。ワルワラ夫人の「親友」。かつてニコライの家庭教師をした縁で、スタヴローギン家の食客となる。

ピョートル(II)・ペトルーシヤ・ピエール・ヴェルホヴェンスキー……ステパンの息子。ペテルブルグの大学を卒業後、ヨーロッパ各地を転々としたあと、この町にやってくる。

ワルワラ・ペトロヴナ・スタヴローギナ……スタヴオレシニキ村の大地主。未亡人。町の有力者。

ニコライ(II)・ニコラ・フセヴォロドヴィチ・スタヴローギン……ワルワラの一人息子。知力体力ともに優れる美青年。ヨーロッパ各地の遊学、ペテルブルク生活のち、四年ぶりに帰郷。

プラスコーヴィヤ・ドロズドワ……ワルワラの女学校時代からの友人。地主。リーザの母。

リザヴェータ(II)・エリザヴェータ・リーザ・リース・ニコラエーヴナ・トウシナ……プラスコーヴィヤの一人娘。莫大な財産の相続権を持つ。ステパン・ヴェルホヴェンスキーのかつての教え子。

マヴリーキー・ニコラエーヴィチ・ドロズドフ……謹厳実直な大尉。リーザのいとこで婚約者。

悪霊2

しおり(表面)

DIC
120p

DIC
250p

アンドレイ・アントーノヴィチ・フォン・レンプケー……町に赴任した新しい県知事。

ユーリヤ・フォン・レンプケー……フォン・レンプケーの妻。リーザの遠縁にあたる。

キリーロフ……建築技師。独特の「人神論」を唱える。ヴェルホヴェンスキー氏のサークルのメンバー。

リフーチン……サークルのメンバー。県庁役人。客齋でゴシップ屋のフリーエ主義者。

シャートフ……ワルワラの農奴の息子。大学除籍後はヨーロッパなどを放浪し、帰郷。

ダーリヤ(II)・ダーシャ……シャートフの妹。ワルワラの養女で同家に暮らす。

ヴィルギンスキー……町の役人。サークルのメンバー。まれに見る純真な心の持ち主。

イグナート・レピヤートキン……自称「退役二等大尉」。大酒飲み。ペテルブルグでニコライと会う。

マリヤ・レピヤートキナ……イグナートの妹。足の悪い「神がかり」。修道院暮らしの体験がある。

カルマジノフ……かつて世を風靡したロシアの大家。県知事夫人ユーリヤの遠縁にあたる。

(アントン・ラヴレンチエヴィチ・G……この小説の語り手。ヴェルホヴェンスキー氏の友人。

悪霊2

しおり(裏面)

DIC
120p

DIC
250p